

本俣兵六踊り



ある日、村人が珍しい話を求めて集まった。吉野ヶ原に行って坊主にならずに帰った者が一人もいないという話を聞いた村一番のぼっけもん、兵六が村人に送られ首を賭けて吉野ヶ原に一人旅する。

その中でキツネが化けて奇人、老父、美女（吉亀）、庄屋、和尚、小僧、地蔵に化けて兵六をだまそうとする。

その中で兵六はだまされながらも、子キツネを捕らえて旅から帰ってくる。兵六は坊主か、それとも・・・。

村人は出迎え、兵六の勇敢な一人旅をたたえる物語である。

昭和24年から30年半ばまで踊られていた、本俣兵六踊りを35年ぶりの平成4年9月24日に復活させたが、8年間活動休止になり、平成12年4月に保存会を再編成し、毎月1回の練習を実施して、保存継承に努めている。

3歳から76歳までの幅広い年代層で構成し、地元出身者をはじめ、学校の教諭、小中学校の児童生徒など30数名で活動していたが、令和2年3月1日藤川天神での奉納を目前にして新型コロナウイルスが蔓延し、奉納を中止せざるを得ない状況であった。それ以降練習もできない状況が続き、現在に至っている。

【奉納・披露】

日程：未定

場所：未定